

研究に関する情報公開

〈人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針〉に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の〈お問い合わせ窓口〉までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の〈お問い合わせ窓口〉までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

〈研究課題名〉

当科における下顎骨骨折の臨床統計学的研究

〈研究機関・研究責任者名〉

日本大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学・歯科口腔外科学分野(附属板橋病院歯科口腔外科)

研究責任者 助教(外来医長) 阿部成宏

〈研究期間〉

承認日～ 2023年3月31日

〈研究の目的と意義〉

歯科口腔外科において顎顔面外傷は日常的に遭遇する頻度の高い疾患であります。特に下顎骨骨折は頻度が非常に高く、顔貌の変形、咬合および咀嚼障害などを伴う非常に重要な疾患であります。歯学部や三次救急を行っていない病院での下顎骨骨折はその全体を反映しておらず、当院のような三次救急を行っている病院での臨床統計学的検討でのみ、真の下顎骨骨折の状況を把握できるものと考えられます。われわれは、以前の報告で下顎骨骨折が地域、生活様式や時代背景を反映し、変化していることを報告しました。(S. Abe et al. J Craniofac Surg, 2023(in press)., T. Kobayashi, S. Abe et al. J Oral Sci, 2019., 若林 慧、阿部 成宏 他、Hosp Dent, 2015.)。さらに、当院でのCOVID-19流行前後における下顎骨骨折においてその動態が変化している可能性が高いのですが、その実態を把握できていない状況です。COVID-19流行下において当院での下顎骨骨折の状況が変化しているかどうかはCOVID-19の感染者が多い東京での下顎骨骨折の臨床統計学的結果を反映しているものと考えます。今までの海外における顎顔面外傷の臨床統計学的検討においてCOVID-19流行下において流行前との動態に違いがあることが明らかになっています(G. Salzano G et al. J Craniofac Surg, 2021., Puglia FA et al. Br J Oral Maxillofac Surg, 2021.)。しかしながら、本邦における報告は現時点で報告されていません。本研究により、当院の下顎骨骨折の動態を把握するのみならず、東京都におけるCOVID-19流行下における第1波-7波、緊急事態宣言の影響等を見出すことができると考えます。

〈利用する試料・情報の項目〉

診療記録より、年齢、性別、診断名、骨折部位、受傷原因、併発外傷、治療方法および受傷までの期間の情報を使用いたします。

〈対象となる方〉

2014年1月1日 ～ 2022年12月31日の期間、歯科口腔外科で下顎骨骨折の診断・加療をした方。

〈研究の方法〉

収集した情報をもとにCOVID-19流行前後を比較する。

〈お問い合わせ窓口〉

〒173-8610東京都板橋区大谷口上町30-1 日本大学医学部附属板橋病院歯科口腔外科 北野英里奈
03-3972-8111(内線8624)